

令和7年度 第2回地域家庭教育推進会津ブロック会議

1 開催日 令和8年1月23日(金)13:15~16:00

2 会場 道の駅あいづ 湯川・会津坂下 会議室

3 開催趣旨

この会議は、会津地域の家庭教育の現状と課題を把握し、課題解決に向けた実践活動を推進するため、各都市PTA連合会・学校代表・企業代表・地域代表による協議を行うものです。

昨年度から、新たなテーマとして「親子のコミュニケーション」についての課題を洗い出しました。「家族との食事の在り方」や「メディアとの付き合い方」、「子どもとの会話の時間や共通体験の大切さ」など、様々な視点から、親子のコミュニケーションを深めるための方策について協議を進め、今年度「親子のHAPPYコミュニケーション」の広報物が完成し、域内小・中・義務・高等学校・幼稚園等へ送付いたしました。

今後、この広報物をさらに家庭へ広め、「親子のコミュニケーション」の一助となるよう、取り組んで参ります。

4 内容

○ 会津教育事務所における地域家庭教育推進関連事業等の実施状況についての説明

(主な取組)

・ 地域家庭教育推進会津ブロック会議 (6/24)

新テーマ「親子のHAPPYコミュニケーション」(広報物)の詳細についての確認
作成した広報物をどのように広げていくかについての協議

・ 親子の学び応援講座

湯川村立ゆがわ幼稚園保護者会 (7/10)

講師：親業訓練シニアインストラクター 大屋 弘子 氏

会津若松市立第四中学校PTA (7/11)

講師：親業訓練シニアインストラクター 大屋 弘子 氏

・ 家庭教育支援者地区別研修 親子のHAPPYコミュニケーション (7/31)

活動発表

会津域内で活動している、家庭教育支援チームによる活動発表 (6チーム)

講演・演習「ペアレント・トレーニングを知って、子どものほめ方を身に付けよう」

講師：会津大学文化研究センター 上級准教授 小川 千里 氏

・ 家庭教育支援チームスキルアップ研修会

・ 福島県家庭教育支援チーム登録制度

・ 家庭教育応援企業推進活動

「東信建設工業株式会社」「会津中央乳業株式会社」「会津ガス株式会社」

「株式会社アクーズ会津」「佐久間建設工業株式会社」「株式会社うたがわ」

「有限会社 吾妻商事日新館スポーツクラブ」「特定非営利活動法人 Solaris」

「有限会社内川水道工業」

上記9社の新規登録により、登録企業数は計170社

○ 「これまでの各自の広報活動について」「より広く広報物を届けたり、必要な家庭へ支援を行ったりするための方策について」のグループ協議を実施

【支援チームグループ】

- ・ 体験を通してこのルールを身に付けさせる。大人になった時に身に付くような継続的な試みを各団体で行っていくことが必要。
- ・ 必要な家庭ほど情報が届かない。生活していくのに精一杯で、広報物の内容に、拒否反応を起こす家庭が多いことがジレンマ。「どうせうちにはできない」と親は言うが、子ども達は求めている。

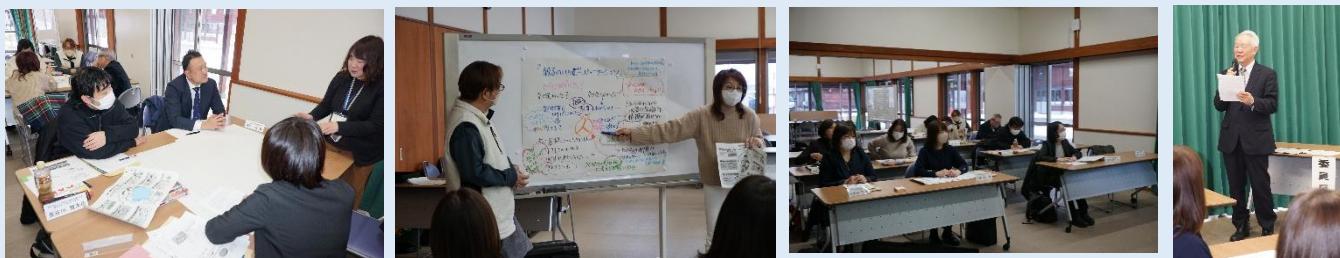
【行政グループ】

- ・ 市の就学時健康診断で家庭教育講座を実施。広報物を配付して見てもらって内容を周知した。保育園でも同様に配付している。
- ・ 子育て世代に届けたい。目を通す機会の増加をねらって、SNSの活用、各種イベントでの配付も考えられる。

【学校関係者グループ】

- ・ PTAのいろいろな分科会でコミュニケーションが大切だと話題になっているので、このテーマで話し合いを重ね、広報物を作成することは、重要な取組であると感じる。親子だけでなく、地域の方とのコミュニケーションによって子ども達の自己有用感が高まり、問題解決につながることもある。
- ・ 本日の会議資料について、データで共有できるようにしていくと、出席者から学校に伝え、広がっていくのではないか。資料のデジタル化を行うと、情報が伝わりやすく、次年度のブロック会議の新委員へもつながっていくものと考えられる。

【当日のグループ協議の様子】



○ まとめ(鶴見常夫 委員長)

- ・ 就学時健診は、親世代の関心が高まる貴重な時期である。その際に、「親子のHAPPYコミュニケーション」の広報物を使い意識を高めてもらうことは効果的である。
- ・ コミュニティの基盤はコミュニケーションにある。家庭のコミュニケーションをよりよくすることは、地域のコミュニティ醸成にも関わるポイントとなる。
- ・ 各支援チームの「人を大事にするスタンス」は素晴らしい。今の時代に合わせた家庭教育を、人を通して考えていくことが必要。人と人が顔を合わせる時間を定例化させていくことで、こうした理念がより浸透していくのではないかと考える。

5 本会議の成果と課題について

〈成 果〉

- ブロック会議委員や所属する団体の特色等を生かし課題解決に向けた協議が有意義に行われた。
- 協議グループを、「学校関係者」「行政関係者」「家庭教育支援チーム」と分け、立場の近い委員同士で協議を行うことで、課題解決に向けたイメージが共有され、活発な協議となった。また、グループ協議の後、発表の時間を十分に確保することで、各グループ同士の情報共有も十分に行うことができた。

〈課 題〉

- 冬期の会議日設定となり、委員の都合が悪く欠席者が多く出こととなった。次年度の第2回目の実施日について、委員長と十分協議を行い実施したい。
- PTA連絡協議会代表等は充て職であり、毎年委員が替わる。そのため、ブロック会議の趣旨を理解していただく必要がある。その引き継ぎ等に工夫が必要であると考える。